

資料6. 本市内のエネルギー供給施設

<発電所の概要>

①東京電力 横浜火力発電所

横浜港の中心近くに位置し、高さ200mの排気塔（ツインタワー）をシンボルにもつ、「人と環境の調和を目指した都市型発電所」。1962年（昭和37年）～1968年（昭和43年）にかけて1号機から6号機が建設された。その後、電力需要の増加に伴い1998年（平成10年）に高効率で環境にやさしいACC（改良型コンバインドサイクル）発電方式を採用した7、8号機が増設された。現在、1～4号機は廃止となり5～8号機で出力332.5万kW規模の発電所となっている。

②東京電力 南横浜火力発電所

世界で初めてのLNG（液化天然ガス）専焼火力発電所。1970年に、1・2号機が完成、1973年に3号機を増設し、総出力115万kWとなっている。神奈川県電力需要のおよそ11%をまかなう年間56億kWhを発電している。

③電源開発 磯子火力発電所

12ヘクタールという限られたスペースを考慮して、設置面積の少ないタワー型ボイラ、活性炭による乾式脱硫装置を我が国で始めて採用し、首都圏の重要電源として、発生した電力を東京電力及び東北電力の2社に供給している。

国内炭・海外炭を燃料とする、最大出力60万kWの火力発電所である。

<ガス工場の概要>

④東京ガス 根岸工場

1969年に日本で初めてLNGを受入れたガス製造工場。1997年には都市ガス業界で初めてISO14001の認証を取得。

2005年度は、ガス製造量（都市ガス13A換算）が約13%増加したが、LNG冷熱発電の出力向上などによりエネルギー使用量の抑制に努め、エネルギー使用量は約3%の増加に留まった。

⑤東京ガス 扇島工場

1998年にスタートした東京ガス最新のLNG工場。景観と保安の面から、タンクはすべて完全埋設型の地下タンクを採用している。既に工場スタートから8年が経ち、緑地には鶯、雉など野鳥が住むまで環境の向上が図られている。省エネルギーと環境負荷低減の積極的な取り組みが認められ、2002年6月に、横浜市より「第10回横浜環境保全活動賞」を受賞した。

2005年には、ガス製造量（都市ガス13A換算）が約16%増加したが、エネルギー使用量は約3%の増加に抑えている。

＜製油所の概要＞

⑥新日本石油精製株式会社 横浜製油所

横浜製油所は、新日本石油グループ他製油所からの原料を使用し、ガソリンや潤滑油その他450種類の各種石油製品やテスト用の試製品を生産している。

特に、自動車用・各種機械装置に不可欠な高級潤滑油、塗料その他の溶剤などに使われる各種ソルベント、ろうそくのほか防水・防湿など多方面に使われるワックスなど、付加価値の高い製品を主力に生産しているのが、横浜製油所の特徴となっている。

さらに、新日本石油グループの首都圏における物流拠点として、製品の安定供給につとめるほか、炭素繊維（カーボンファイバー）材料の製造・開発、環境関連商品および高効率燃焼機器の開発や卸発電供給事業などにも力を入れている。

⑦新日本石油精製株式会社 根岸製油所

面積2.2百万㎡、周囲約12kmにおよぶ広大な敷地に展開される、340,000バレル／日の原油処理能力をもつ製油設備。根岸製油所はその建設にあたり、「公害のない美しい製油所をつくること」「高品質な製品を大量かつ安定して供給できる日本一の規模にすること」「設備はできる限り統合化し、集中・自動化をはかる一方、コンピューターをはじめ最新の技術によって設備を合理化すること」という3つの基本構想に従い設計された、我国最大のモデル製油所である。

出所：各社ホームページより